

予防接種のおはなし

医師 陌間 大輔

十月に入り、朝晩の冷え込みが強くなってきました。皆さんはいかがお過ごしでしょうか。今年も例年通り、十月からインフルエンザの予防接種が始まります。

毎年受けている方は今年も、いつもかからないかと去年までは受けていない方も今年からは是非受けてみてはいかがでしょうか？

そもそも予防接種とは？ばい菌やウイルスを弱くしたもので、その一部を接種し、体の中であらかじめ免疫を作ることで、実際にそのばい菌やウイルスにかかりにくくしたり、かかった場合でも症状を軽くすることを目的としています。予防接種の歴史は古く、紀元前千年ほど昔にさかのぼります。みなさんは天然痘という病気をご存知でしょうか？インドなどでは人痘法といって、天然痘にかかった人の膿を接種する方法が行われていました。

それが十八世紀にイギリスやアメリカに伝えられました。エドワード・ジェンナーは牛の乳しぼりをしている人がほとんど天然痘にかからないことに注目しました。乳しぼりを介して牛痘にかかったことのある人は、同じような症状の天然痘にも免疫ができるのではと考えました。そこで一七九六年五月十四日に牛痘に感染した女性の膿を使用人の八歳の子供に接種し、その六週後に天然痘の膿を接種させましたが、その少年は天然痘を発症しませんでした。ラテン語で牡牛を意味する「ワッカ」から牛痘の膿のことを「ワクチン」と呼び、この方法がワクチンの起源となりました。この功績からジェンナーは「近代免疫学の父」と呼ばれています。



現在日本で受けることができるワクチンには定期

接種と任意接種があり、定期接種にはヒブ（インフルエンザ菌B型）、肺炎球菌、四種混合（ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ）、BCG、MR混合（麻疹、風疹）、日本脳炎、水痘（水ぼうそう）、インフルエンザ（六十五歳以上、及び六十から六十四歳で心臓・腎臓・呼吸器等の疾患のある方）、高齢者肺炎球菌（六十五歳以上及び、六十から六十四歳で心臓・腎臓・呼吸器等の疾患のある方）があり、任意接種にはムンプス（おたふくかぜ）、B型肝炎、A型肝炎、ロタウイルス、インフルエンザなどがあります。また海外旅行前には、渡航先によっては黄熱や狂犬病などの予防接種が勧められている地域もあります。特に狂犬病は発症すれば致死率100%の非常に重篤な病気です。哺乳類であればどんな動物にでも感染するので、海外で犬以外の動物に接する場合でも注意が必要です。



インフルエンザにかかると、同時に肺炎にもなる場合があります。肺炎は日本人の死因の上位に入るほど重大な疾患です。また肺炎による死亡者の95%以上が六十五歳以上とされます。その原因の中でも最も多いのが肺炎球菌とされるため、六十五歳以上の肺炎球菌のワクチンが二〇一四年から定期接種になっています。しかし定期接種の対象となるのは、同年度に六十五、七十、七十五、八十、八十五、九十、九十五、百歳となる方です。しかし、これに該当されない方でも助成はありませんが予防接種を受けることができますので、ぜひ担当医と相談されてみてはいかがでしょうか？

それでは秋もどんどん深まっています。皆さん体調にはお気を付けてお過ごしください。

《お知らせ》

本年度インフルエンザの予防接種について

今年もインフルエンザワクチンの接種を開始します。

昨年までは一回のワクチンの中には、A型二種B型一種の合計三種類のワクチンを混ぜたものでした。今年度接種を予定しているワクチンは、ワクチンの効果を上げるために、流行するであろうと考えられたA型二種B型二種の合計四種類の混合ワクチンになります。

一種類増えたことにより、薬価（薬の値段）がこれまでより高くなりました。インフルエンザを予防するため、一人でも多くの方に予防接種を受けて頂きたいという気持ちはかわりませんが、価格の上昇という問題はさけられない状態になりました。

六十五歳以上の方は、例年と同様に市町村からの補助があります。

インフルエンザワクチンにはインフルエンザの発症を予防する効果がありますが、他の薬剤と同様に一〇〇%の効果을期待することはできません。予防効果は、調査対象や調査方法によってその結果は一定せずに様々です。有効性に限界があるからこそ、より多くの方に接種していただければ、接種の効果が低いとされる二歳以下の小児や基礎疾患などのためにワクチンを接種できない方などもその集団免疫効果によって守ることができま



す。そのため、多くの方に積極的にワクチンを接種するようにお勧めします。ワクチンを接種したにもかかわらず残念ながら発症した方には、期待に沿えず医療関係者として申し訳ないという気持ちと、接種を受けて集団免疫効果に寄与していただいたことに感謝致します。

インフルエンザは抗ウイルス薬があるのでワ

クチンでの予防は必要ない、という考え方はお勧めできません。発症後に抗ウイルス薬を使っても重篤な合併症を発症する危険性はなくなりません。また、抗ウイルス薬を使っても周囲に対して感染力があります。やはり、ワクチンで発症を抑制する一次予防が重要です。

六十五歳以上の方のインフルエンザの予防接種を十月から、そのほかの年齢の方の接種を十一月から実施致します。詳細は決定次第、別紙及び院内掲示にてお知らせ致しますのでどうぞご覧下さい。



医師の不在について

左記の日程、都合により各医師が不在となります。ご迷惑をお掛けしますが、予めご理解お願い致します。

- | | |
|-----------|--------------|
| 十月一日（木） | 中村医師不在 |
| 十月八日（木） | 中村医師山之上診療所へ |
| 十月二十七日（火） | 十一時以降 雨森院長不在 |
| 十月二十九日（木） | 中村医師不在 |
| 十月三十日（金） | 夜診 雨森院長不在 |
| 十月三十一日（土） | 雨森院長不在 |
| 十一月七日（土） | 雨森院長不在 |
| 十一月十二日（木） | 中村医師不在 |

